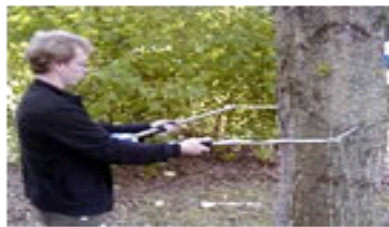


画像診断

操作:



1) 幹の周りに鉄クギを打ちます



2) ソフトが指示する釘の間隔をkキャリパーで測定しPCIに入力します。計測断面の形状が確定します



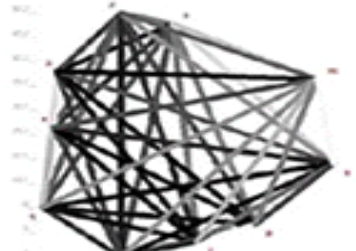
3) 幹に巻いたストラップにモジュールを取り付け、クギ頭に磁化センサーを取り付けます



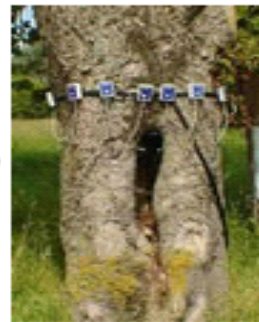
4) 発信センサーをモジュールにつなぎます



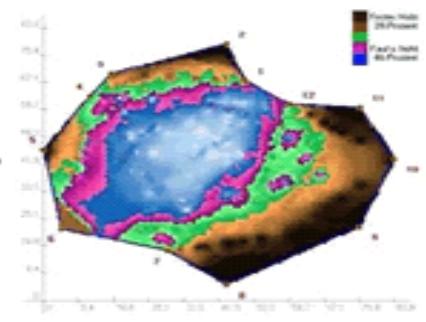
5) クギ頭に打撃子を取り付けハンマーで打撃子を軽くたたきます



6) 各センサー間の音波伝播速度をソフト上で演算します



7) 空洞が2方向に開口した樹木



8) 断層画像



測定腐朽断面積率

ピカスで測定し、そのソフトで断面の状況を把握した腐朽部位の面積割合

白色	腐朽部位を示している。紫色、青色、白色の順で腐朽がひどくなっていることを表す。
青色	
紫色	
緑色	腐朽していない部分を示している。緑色、茶色の順で材がしっかりしていることを表している。
茶色	

腐朽率について：

- ・ 50%以上は幹折れまたは倒伏の危険性が高いと言われている。
- ・ 見た目は良い状態に見えるが、腐朽は進んでいる場合がある。

4 3 測定腐朽断面積率：70%

子実体が複数箇所が発生しており、想定腐朽断面積率は70%であった。そのため本調査個体の健全度は「不健全」と判定した。

70%と非常に高い腐朽率であるが、東側と北側の樹幹表面で発達した不定根が見られ、旺盛に生育して幹を支えている。このためにすぐに幹が折れたり、倒れたりする心配は少ない。

4 2 測定腐朽断面積率：0%

ピカスの図では、材が健全のようにこげ茶色の発色をしている。これは材の強度が落ちていないために音波の伝わり方が、健全材とかわりがなかったためだ。

実際は辺材腐朽のナラタケモドキに冒されていて、根からの水分吸収がうまくいっていない。地際にはベッコウタケも発生、根株腐朽が進行している。この木は材の強度を失う前に枯れてしまう。

ベッコウタケ



- ・ 樹木内部の中心部分を腐朽させるキノコ。
- ・ 根元に発生する。
- ・ クリーム色、灰白色、白茶色の順に色が変化してゆく。
- ・ 緑化樹木に発生する頻度の高い腐朽菌の1つである。

コフキササルノコシカケ



- ・ 樹木内部の中心部分を腐朽させるキノコ。
- ・ 幹や枝、地際部に発生する。
- ・ 通常は灰白色だが、胞子が散布されるとココアをまぶしたようになる。
- ・ 緑化樹木に発生する頻度の高い腐朽菌の1つである。